

平成28年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的な生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

- 2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承し、更なる学校の活性化に向けて全職員が一丸となり、「誠心誠意 ～当たり前のことを当たり前に～」のスローガンのもと、次の8点を重点目標に掲げ、生徒の「人づくり」のために邁進する。
- ①基本的な生活習慣を定着させ、授業・部活動・学校行事および生徒との面談等を通して生徒の内面への指導を充実させ、遅刻・欠席・問題行動・転退学者の減少を図る。
 - ②基礎学力の定着と授業の充実および基本的な学習習慣の定着により学校生活の充実を図らせる。また、学力向上により進路実現100%を目指す。
 - ③入学させた生徒全員を卒業させることを目標にきめ細かな指導を行う。
 - ④クラス目標を掲げ、目標達成に向けて教職員の協力体制を構築する。
 - ⑤服装容姿、挨拶のマナーアップを図り、地域に信頼される学校づくりを目指す。
 - ⑥更なる商業系資格取得の向上、および英語力の向上を目指す。
 - ⑦新校舎をいつまでもきれいな状態で保つなど教育環境の整備に努める。
 - ⑧部活動の加入率を向上させ、各種大会で上位を目指す。

4 前年度の成果と課題

「生徒一人ひとりを大切に育てる」ための具体的な方策として、基本的な生活習慣の更なる定着、授業の充実、家庭学習の習慣化、部活動加入率の更なる向上、マナーアップ等々、取り組むべきことは山積しているが、教職員が一丸となって重点目標達成に向けて新校舎とともにイメージアップを図りたい。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知できたか。 ・重点目標に積極的に取り組めたか。 ・各分掌部長・学年主任がそれぞれの役割を果たせたか。 ・職員の資質向上ができたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を80%以上にする。 ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を80%以上にする。 ・分掌・学年が決めた目標達成をする。 ・職員研修の機会を増やす。	・全校集会、振興会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して月毎に面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを強化する。 ・本校経験年数4年未満の職員に対する初任者研修等を年20回行う。
	生徒募集 (広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生とその保護者に正しく伝えられたか。 ・受験者数の増加につながる募集活動が行えたか。	・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで他校との差を理解させる。 ・受験者数の前年度比120%、専願入学者120名を目標とする。	・種々の募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に戦略を練る。 ・新校舎、部活動、資格取得、進路保障を全面的にアピールする。
	学校事務	・生徒・職員の安心安全のため、体育館立替及び外構工事に着手できたか。	・安全かつスムーズな工事進行を行う。	・工事の進捗状況に合わせ、生徒・職員の安全な導線の確保を図る。
教育活動	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・佐賀県教育センターの教育相談・生徒指導に関する講座、特別支援に関する講座等専門講座や公開講座の中から3年間で1回以上を受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に研鑽に努める。	・職員研修会を各分掌分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。
	学力向上	・基礎的知識と技能の修得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「分かる授業」の実践と「家庭学習」の習慣化に努める。 ・進学、就職に対応できる学力の定着を目指す。	・学習規律の形成と環境の整備に努める。 ・各教科「分かり易い授業」のための手立てを研究する。 ・平時より宿題を課し、チェック評価する。
	進路指導	・進路実現のための基礎学力が定着したか。 ・発達段階に応じた進路意識が芽生えたか。 ・進路ガイダンス等がキャリア教育に生かされたか。 ・希望進路が具体的な進路保障につながったか。	・進路指導講話や外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・受験に対応した学力と学習力(GTZ)の向上を図る。 ・成績高等部を牽引力とした国公立大学合格者数10名を目指す。 ・就職内定率100%を達成する。	・進路調査、適性検査、進路ガイダンスなどで個々の客観的データを分析する。 ・基礎学力診断テストなどの分析によりミスマッチのない進路指導を行う。 ・学力向上のためのセミナーを実施する。 ・担任によるFINE SYSTEMの利用により具体的な指導を活性化する。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施する。
特定課題	生徒指導	・交通安全の意識向上があったか。 ・校内外でのマナー良化ができていくか。 ・制服が正しく着こなされたか。	・交通事故0を目指す。 ・マナー向上に努める。 ・制服を正しく着用する。	・全校生徒で交通安全についての意思統一を図る。 ・生徒会と共同して啓発活動を行う。
	環境美化	・新校舎の最初の状態が維持されるか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・校内美化の意識が向上したか。	・新校舎の最初の状態を維持する。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。	・清掃用具を充実させる。 ・美化コンクールなどにより校舎使用のマナーやモラルの向上を図る。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各クラブの部員数を増やす。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。	・クラブ紹介を工夫する。 ・文武両道が実践できるように部活動の質を高める。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・チーム(担任、学年主任、管理職、教育相談担当者、スクールカウンセラー)の連携を図り、生徒への対応が充分に行えたか。	・教育相談室全体が、学習に取り組める雰囲気作りを行い、学力の向上を図り、生徒に自信をつけさせ、達成感を味わわせる。 ・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校への関心を持ち、所属学級へ戻れるよう努力する。	・日々の生徒との関わりを通して、生徒が安心して相談できる環境を整える。 ・生徒一人ひとりに合わせた学習指導を行う。 ・チームの連携を図り、生徒に関わりをもつ時間が増えるようにする。
	礼法教育	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分であるかどうか。	・学年進行で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすと共に、社会人になってみずくになれるようになる。	・机上学習で学び、礼法室での実技を通し体得させる。
	生徒会活動	・校内の問題を自分たちで考え、主体的に行動できたか。	・学級活動や委員会活動を活発に行い、学園全体のマナーアップを図る。	・生徒の意見に耳を傾けボトムアップ機能を充実させ、関連分掌・学年・学級との連携を密にする。
特定課題	キャリア教育・マナトシ	・毎日のマナトシの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターンシップを将来への進路選択へ結びつけることができたか。	・マナトシを学習することでGTZのD2ゾーン以上への学力向上を目標とする。 ・3年間を見通したキャリア教育を実践して進路実現に結びつける。	・まとめのテストや認定テストを分析して、生徒の学習のフォローを行い、レベルアップを図る。 ・キャリアノートやインターンシップを活用することで進路保障に結びつけることができるように指導の充実を図る。